（廿三日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭、第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料　二行五十錢（指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

隨筆

十年如一日

門　高太郎

克く眞面目に自己を無にして長い間勤め上げた事を「十年一日の如し云々」といふこれは十年即ち三千五百六十餘日をたつた一日と同様にやつてのけたといふ事だ人間の生活といふものは必ずしも終始一貫してゐるものとは思はない又長く續いたから意義があるとのと考へたくない、生活の刹那々々に意義があり長い生活も幾つかに切斷してもその一片一片に意義のあるものでなければならぬと思ふ、それで十年三千五百六十餘日はその一日一日が嚴肅なる意義な世界を形つてゐなければならぬと思ふ。この意味で「十年一日の如し」といふ言葉は甚だ面白くない考へ様によつては三千五百六十里進むべき所を足のきざみを極めて小さくして一里しか進まなかつたといふ事にもなる、つまり十年間停止してゐた事と同じ様にも考へられる、まさかさう一がいにも言はれまいが「十年一日の如く」といふ形容詞を冠せられて表彰などされる人にはよくこんなのがあるのではあるまいか、人間は須らく「十年は十年の如し」でありたいそして「十年十二年の如し」といつた様な人を賞したい

靈と肉　□□□□　（一）

平時代の思ひ出

長岡加登晴

赤井薫がピユツと吹き來る頃、赤い帽子に黄線の入つたユニホームを身にまとうた一靑年が平にやつて來た。

そして間もなく太鼓を提灯をたづさへて平銀行前に街つて路傍説教を始めてゐた。寒風は遠慮もなしに吹きつける。だが行交ふ人は彼の叫びに誰一人耳を傾むけるものとてはなかつた

呼べ覺せ眠る靈
生命の泉に身を洗ひ
潔くなれ人よ

と歌ふ、歌も哀調を帶びてゐた。叫ぶ聲は段々に嗄枯れて次から出る言葉は如何にも苦しそうに聞きされた。寒風も將又聽手もないのもなんのそのかすかとばかりに勇を鼓して歌ひ且つ語つて何の得る處無きが如くすご／＼と引揚げて行つた。

私室に歸つても人の氣火の氣一つない。寒さに顫ひ作ら机、兩肘突いてバイブルを前に讀んでゐるのやら祈つて居るのやら。――彼の涙腺は濕されて熱い泪がボトリと一雫。

これは私自身の姿である都校を出て間もなく販々しい都會を後に救世軍平小隊長と言ふ重任を[illegible]けて老將[illegible]職[illegible]だつ[illegible]十[illegible]若僧。私[illegible]に耳を貸すもゝなたのも無理ではないと今更に思ひ起す。だが當時の私は無鐵砲な位一生懸命だつた。

序言

一人で路傍に立つ憐れな姿もいつしか消ねて多くの人々が私の働を助けて呉れるやうになつた。隊を組んで町を練り廻り寒風に吹かれて慈善鍋の側に立つた その間私には種々な思ひ出がある。嬉しかつた事、悲しかつた事、樂しかつた事、苦しかつた事、それを私は語り度いと思ふ。

思ひ出をのこして平を去つたのは早や五年前の事だ五年と言ひば半昔の事その後二度ばかり平の土を踏んだ。一度は救世軍の語り[illegible]事があつた。二度目は昨年の八月に旅行の途上單にスルーした丈け併し當時の諸君が眞夜中の二時と言ふにわざ／＼驛頭に出向いて呉れた。どんなに懷しく嬉しかつたことか、この時は私の体に救世軍の制服は着いてゐなかつた。なぜなれば止めたからである。

何故あれまで一生懸命にやつた救世軍を止めたかそれも書かう。極めて斷片的にそしてそれに倚現在生活の部分も加へやう。あの場合は私の布呂敷になか或[illegible]的[illegible]知ね。だが赦せ、私の經驗告白であり思ひ出であるから私は一生漂流の人間の風來坊だ。それと共に眞面な眞理の探究者であり巡禮者であるだから或時は眞けんに或時は上辷りに不眞面目になるかも知れぬ。兎も角筆の向くまゝ暫く書き續けやう。

明日の吉凶　舊暦三月十五日　新暦四月二四日

▲一白　利口振りて人の信用を失ひ易き日注意／＼▲二黑　沈着なるときは次第に成功の域に達し得べし▲三碧　進退共に氣の許せぬ外にありて殊に然り▲四綠　忠言耳に入らず獨斷失敗を繰返し易き日▲五黃　常業には吉なれども新企の事は危險伴ふ▲六白　迷ひ／＼て元氣を損す働くにまさりたるなし▲七赤　傾きかけし運氣を次第に立直り行くべき日▲八白　進退ともに自由なる日但し口は注意すべし▲九紫　猛威をふるふ時は意外の失敗を招くことあり

講談　[illegible]

渡邊默禪作　宮野歌春畫

（1215）

お君はなほ語をついで「もし又、私が無理押附けにするのが氣に障ると云ふなら私は是で引き下ります。から本人同志でよろしい樣に御相談なすつて下さい。私は只うんと言ふ返事を承ればそれで役目が濟むのですから」

と、躍起になつてしやべり嫁味まじりに活烈な攻撃を加へた

「皆んな異つてらあ！」

と梅は冷やかに笑つて

「町人だから嫌ひなんて云ふ柄だかどうだか見ても解りそうなもんだ、俺の目には大將軍も關白樣も大政大臣もありやしねね、百萬石取りの大名も三石取りの腹つかみも肥桶かづぎの百姓もこもつかぶりの非人乞食も裸にすりや皆同じ人間だ、その人間同志の格式がどうの家柄身分がどうのとより婦ひしたところで詰まらねえぢやねねか、町人であらうがねたであらうが貫になつたら俺あとんちやくねね、そんならた雪さんが不足かと言はれるとエーどうつッころばしまして御勿体もござりましねねと言ひたくなる、た前がお取り持ち何の氣に障るどころか御苦勞樣なことで、へエー有難御座いますと御禮を言ひてわくれねなもんだ、そんな譯では更々ない、只なあ、何となく氣が進まない、と云つてお雪さんがいやなのでもない、た前達の方に不足があるんではない、何だか知らねねが氣が乘らぬまあ御斷り申しませう」

膝にとまつたやぶ蚊をたゝいて池の菖蒲に目をそらした

「解らないねえ、た前さん言ふことは……」た君は不審らしく考へてゐる

「俺にも解らねねよ」

「氣乘りがせぬと云ふのはどう云ふ譯でせう」

「さあそれがな俺にも怪体でたまらないのだ」

「なにを言つてるのさ梅さん、しつかりしたことを言つて頂戴よ」

「これより上にしつかりしようがねね」

「奥齒に物がはさまつた樣だわね」

ふんどしに虱が這入つてる樣だね

「オホ……そんなことを……ぞ仔細あるものでせう」

「一四歲にもう一つ足すと男の子の初厄だ、七ッが祝着でお官詣りよ、どれ長つ話しをして九歲かなと思はれても馬鹿々々しいからそろ／＼六十一の本家歸りとしようか、勘太郞さんにも話かあるんだ」

梅は立ち揚つて土橋の方へ急いだ、その後姿をた君は恨めしそうに見送つたが雪江はもう顔をあげる元氣もなくあづまやの柱にしがみついて忍び音に泣いた

×　×　×

その夕景に勘太郞夫婦は歸り去つた、雪江はた君に云ひ含められたことがあるのでその跡に殘つて宿る都合になつた羞かしさが先に立つて顔を見られるのもいとはしい程であつたが、此頃が戀の一生懸命、梅雄の側をはなれずに一生懸命何やかやと心を配つて仕へてゐた、梅雄は別に隔意のない樣子、無邪氣な諧謔を言つて笑はせて成るべく雪江に究屈な思ひをさせまいと務めるかの如く見えた。

廣告

吉田眼科醫院

貸切自動車の御用命は
高級車で乘心地の好い
昭和タクシーへ
昭和タクシー　平驛前
電話は　三四三番　サシミ

有聲座出張
◉兩日封切映で大公開　廿四日　廿五日
マキノ特作マキノ省三指揮傑作
江戶兒
谷崎十郎　高木新平……主演
助演……新見映郎　マキノ潔
大帝キネ特作
武道流血記
明石綠郎主演
嵐璃德　高津愛子……助演
登龍
松本田三郞大力演
キング連載吉川英治原作
片岡千惠藏身血頭注篇
續第二篇　萬花地獄　封切
世になき筈の山田飛車兵衛の出現三日之助の手より光江姬を救ひ出す角太郞を繞ぐる妻お吟の三角關係、草津峠に於て罠に落ち込んだ角太郞の受難、破亂重疊劍戟爭鬪！
於　四倉座

平町田町
高久病院
電話五一三番
內科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄

レコードハ此のマーク！を
HIS MASTER'S VOICE
TRADE MARK REGISTERED
店員募集
肉聲のビクターレコード
販賣店　會田時計店
平町四丁目（電話三六三番）

內科、小兒科（院長每日療）
院長　醫學博士　難波睦
副院長　醫學士　五十嵐雄次
內科部長　醫學士　中西林藏
外科一般
外部長科　醫學士　氏家憲介
每日曜手術　醫學博士　鈴木退輔
產婦人科、女子泌尿科
產婦人科部長醫學士　五十嵐雄二
顧問　醫學博士　川添正道
×光線科
主任　醫學博士　難波睦
本院醫事法制囑託　法學士　岡蕃
本院主事　賀澤忠治
御大典記念事業トシテ
一衛生試驗所（共濟病院內）十一月一日ヨリ開始
一病氣相談所（共濟病院內）十二月一日ヨリ開始
一救療所（共濟病院內）十二月一日ヨリ開始
磐城　共濟病院　平町電話六四一番
◉看護婦見習募集

內臟外科
骨關節外科　專門　藤本順
整形外科
產科
婦人科　院長　木村寅次郞
平町新川町
外科　婦人科
木村醫院
電話一六四番

夜間診療
胃腸　梅毒
內科　十二指腸虫病　專門　內科部
淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部
松村胃腸性病科醫院
（平南町電話一〇七番）

學生用腕時計元價提供
時計が無いので學校が遲れたなど、誠に不成績の原因となります僅かで然も特價で求められる此時期に是非御買求を願ます
◉特價保險付品
一クローム　男用十形　女用九形　瑞西製
十五石入腕時計
一金六圓八十錢均一
平三　大谷時計病院　電話一九番

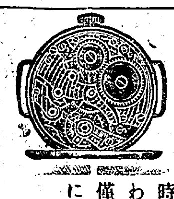
營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負　其他
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

新築移轉
耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一（電話五五九）

梅毒と體毒を切らず注射せず治す
ベルツ丸
獨逸ベルツ博士
SUZUKI NIPPON-SEIYAKUSHA
◎梅毒。りん毒。下疳。しつ毒。横痃。梅毒性リウマチス。ひゐ毒。せきず。痔疾。腦梅毒。遺傳梅毒。惡性皮膚病其他
藥價　輕症用三圓・重症用五圓・頑固用十圓・根切德用廿圓・試用二圓・一圓
平町五丁目角
地方一手特約店　山野邊藥局

特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋　山崎合名會社
電話一〇番

釀造元
清世界
銘酒
各炭鑛御用達
㊔清水屋　小野晋平
石城小名濱町
電話六番



平町會議員の六氏が突如檢事局に召喚
瀆職罪の嫌疑ありとして
事件は進轉の兆

平檢事局では去る十五、六日以來平署高等課と共力秘密裡に何事かを內偵中の處二十一日午前十時町會議員○○○○氏を筆頭に町議五名並に參考人として二十二日○○○○氏を召喚し午前九時より午後に亘り武田檢事の取調べを受け更らに進轉するもの〻如くである、事件內容は極秘に附され眞相詳かならざるも三月中に行はれた或る問題に際しきようおうその他瀆職の嫌疑あるもの〻如く町會改選を前に事件の成り行きを注目されてゐる

工費十九萬圓で豐間港修築決定
きのう村會で萬場一致
計劃設計の內容

石城郡豐間漁港は昨年十二月の通常縣會に於て縣補助工事として行ふことに決定したのでいよ〱今年度から四箇年繼續事業として着工することゝなつたゝめ二十二日同村役場に村會を招集し總豫算並に計畫、設計全部の承認を求め直に縣に提出した同港の總豫算額は十九萬圓、この中七割約十三萬圓は縣補助となりその他は豐間漁業組合支出となつてゐる、四年度工費豫算額は組合支出三萬二千七百圓を以て着工する事になつたが同漁港の計畫設計內容は左の如し

計畫設計內容

船留掘鑿面積二千二百五十坪浚渫面積千六百八十坪、訓書內港總面積三千七百五十坪、これに伴つて干潮面以下八尺の深さとなる、この外護岸九十五間、荷上場五十間、埋立護岸百七十六間、防波堤(舊防波堤擴築)七十間干潮面上九尺新設防波堤二十間、埋立工事面積二千七百五十坪、干潮面九尺高以上を以つて昭和七年までに全部の工事が完成することになるが、完成の上は大型漁船四十六隻を繫留せしむることが出來るばかりでなく十隻の漁船を岸壁に横付けとして自由に荷上げをなし得る大漁港となる

石城遺跡探檢記
(泉村下川字劔ノ貝塚)

橘月學人

余は昭和四年一月十五日石器時代の遺跡として有名なる石城郡泉村大字下川字劔の貝塚を實地調査に同地を訪ふた。

遺跡は同地の農家小口傳之助氏所有丘上の畑中にして、總面積約二畝步餘、地下二尺は一面の貝塚をなしてゐる。勿論當時の民族が食料としたる貝殼を捨てた場所で、其の種類は芊貝、螺貝、牡蠣、蛤、ルイシ、エッチウバイ等で稀れには獸骨、鹿角等も交つてゐる。余は此の貝塚より發見せる遺物は石劔(長一尺餘)石斧、石鏃其他石製品及土器種々數百千個に及ぶ、當日余も同所より發見せる小形石斧(頗る精巧なる磨製青色)一個及石鏃數個を小口氏より貰受けた。

余は此の遺跡を全体から通覽して、此の貝塚を殘した民族は漁獵もやれば、狩獵もやつた事を推察するに難くない。なぜならばとても此の累々と積成せられた貝層の中から獸骨、角等が發見するからである。又此處から多く發見せらるゝ小形石斧は海邊より貝類を採る際使用せられしものと考へられ、石鏃の發見は無論鳥獸類を狩獵するに使用し事が認められる。

次に此の遺跡を通覽して何故に當時の民族の食料とせし貝類の殼をわざ〱斯く丘上に捨てたかと一般の了解に苦む所であるが、之は貝類のみならず生物が死せば其靈魂は殘存し又元の屍体に戻りて生活すとのビリーフは古今を通じて多く原始民族の間に一般に行はれてゐたのである。當時此處に住居せる民族も貝類を採りて食料とせしも、貝殼が海沼澤に捨つれば其の靈魂が又元の貝殼に戻りて祟りをするを恐怖して丘上に捨てた事は推考するに難くない。是れは此の貝塚ばかりではなし一般斯る例を示してゐる。

尚ほ精細に記述して發表したいが稿を他日に讓り今回はこれで筆を擱く(終)

四倉町議戰
政民伯仲
十八名立候補

石城郡四倉町は町會議員改選に際して政、民兩派とも大々秘策を練つてゐるが現在立候補が決定したのは民政派が九名、政友派が七名民政系中立が一名で既は定員の十八名に達してゐる、この外政友系の中立を標榜する者や磐城セメントを背景として俸給生活者を代表する者が立候補する者と見られ相當激戰を豫想されてゐる

石城出身の大連在人
重なる人々

石城郡出身者にして海外大連市に於て活動中の人々左の如くである

(平町)滿鐵大連醫院金子甚藏、貿易商草野邦藏(湯本)滿鐵地質調査所木村六郎、滿鐵沙河口工場市橋寅次郎、伊東正隆銀行木內勝美(鹿島)大連機械製作所坂本敏、滿鐵沙河口工場小松旭(好間)滿鐵大連事務所許斐信雄、岩崎店員岩崎原三郎(夏井)滿鐵大連事務所矢吹良策(草野)滿鐵鐵道部永井仲男(豐間)燈臺監守馬目幸次郎(神谷)大連朝日小學赤塚末造(泉村)商業小園廣信(小川)關東廳水產會社井戸川森吉(植田)大連商業學校瀨谷佐次郎(玉川)滿洲工業專門學校鈴木勝雄(玉川)滿洲日報社鈴木昇(草野)大連警察署新妻仙重郎

會津遊覽團
會津人會の主催

石城會津人會主催の會津旅津虛空藏寺、圓藏寺、東山温泉鶴ケ城趾、白虎隊記念塔の參拜團募集は五月七日〆切であるが會費は汽車、自動車、宿泊、中食、御護摩料共九圓八十錢で五月十一日午前九時廿五分平驛を發し十三日東山解散であると

キリスト講演

平町材木町バプテスト教會では二十三、四の兩日文哲學博士ケナード氏のキリストの講演と題する話會があると

醉つた四人組若者公園で大亂暴
酒を飲ませられぬとて
平署に檢擧さる

平町二丁目鈴木一(二五)才槌小路山崎安治(二〇)紺屋町山崎朝光(二七)同若松勇(二八)の四名は二十二日午前二時頃泥醉の末公園內賣店片寄寅次方に上り込み酒を飲ませろと暴言を吐き櫻樹を引き拔いて寅次に打つて掛り土手の竹棚を破壞し卒塔婆七、八本を打ち壞して止めるのを聞かず賣品を目茶〱に倒壞したこと巡邏中の平署巡査に檢擧され嚴重な取調を受けてゐるが前記鈴木、山崎の兩名は數回說諭を食はされたしたゝか者である

工費廿萬圓で新生の平局
今度こそ着工

平町四丁目角將來同町の中央地を見込まれる所に昨年四月六百坪の敷地を買收した平郵便局　新築は本省の都合で着工を延ばされてゐたが近く愈々競爭入札に付し落札直ちに起工の模様であるが機械を据ゑる電話交換室其他は耐震耐火の總鐵筋コンクリート二階建に一部の地下室を設け郵便事務室は外面を鐵筋コンクリートで包む中に木造二階建を仕組むことになつてゐる工費豫算は廿萬圓近くのものであると

麥作、綠肥も共に不良
石城郡內農況

石城郡駐在神尾技師は過般來郡內麥作並にれんげ草の第二回發育狀況に就て調査した結果麥作は極めて不良で平年に比べて約半作位の見込である、殊に海岸に接近してゐる地方は、漸く三作位に過ぎない、れんげ草に於ても同樣の狀態にあり各農家は頗る弱つてゐるこれは昨年の播種期における天候が極めて不良であつたがため時期遅れた事降雨がなかつたので土地が乾燥し根延びが不良となつた事等が最大の原因をなしてゐる

平の家屋稅
二萬四千圓

平町今年度の家屋稅割當は二萬四千三百六十三圓十厘と決定した

水田に鯉を飼ひば純利一反五十圓
幼鯉の半額は縣で補助
本郡農會で獎勵

石城郡農會當局では農家の副業として養鯉業を獎勵し既に神谷村、勿來町等で相當の實蹟を收めてゐるが更らに本縣農務課では今年から水稻養鯉を獎勵町村農會及び農學實行組合、養鯉組合の養鯉購入に對しては購入費の半額の獎勵金交附する事になつたから希望町村は至急養鯉組合を組織し五月末日迄に申込まるべしと而して當年生幼鯉一尾の價格は二厘二毛乃至三厘で一反步の水田には三千尾を放つ事が出來るので縣は今年度は取敢ず百萬尾を限り一尾二厘二毛で斡旋する事になつたが其の經營狀態について見れば一反步の水田に養魚するものとすれば仔鯉三千尾の代金六圓六十錢、設備雜費五圓と見て計十一圓六十錢資金に對し一ヶ年の收入(六、七、八、九月の四ヶ月間)は約三割の斃死鯉を控除しても一尾二錢五厘には賣れるから五十一圓五十錢の收入となり資金の十一圓六十錢を差引四十圓九十錢の純利を見る事ができ極めて有利な事業であると云はれてゐる

植田町長は新町會で
六月以後決定

石城郡植田町長後任問題は既報せし如く政民兩派伯仲にて議容易にまとまらず今日に至つたが助役の任期も一ヶ月の後に迫つたので、小野助役も自己の責任上且は自治体の体面上よりも何とか自己の任期內に町長を決定し、職務管掌の恥辱を免れんと苦慮するもの〻如くである、而して來る二十四日には區長推薦及び町費一時借り入等の爲め町會を開催するが現狀のまゝにては町長選擧を執行し難く五月に入つて町會招集の腹らしいが結局決選投票までに行かずに六月の町會改選を俟つて町長選擧を行ふに至るであらう

教員檢定試驗
受檢百九十六名
けふから平で

平第一小學校において今二十三日午前八時から二十七日まで五日間に亘り高等尋常正敎員二十七名尋常正敎員三十二名尋常科准敎員七十九名專科正敎員五十八名合計百九十六名の志望者に對し檢定試驗を行ふ筈であるが縣から設樂屬第一第二校の會我佐藤兩校長の三氏がこれに當る由

煙草『昭和』に苦情
きのう小賣人組合會で
朝日とバットが近く來ます

石城郡地方殊に平町市內の煙草小賣店には本月初旬頃より朝日、バット其他安價な比較的一般向きの煙草が品切れとなり從來最も不評判の昭和のみが並べられ然かも多くの需要者は嗜好に適せずして高價な昭和を嫌や〱乍ら無理强いに賣り付けられる騷ぎに相當不平聲を聞いてゐるが之れは專賣局が荷厄介になつてゐる昭和を處分せしめたい爲めの苦肉策で各需要者から苦情を聞く煙草小賣人等は當局の無理强いに業を燒き昨二十二日午後一時から平町丸新館に平町煙草小賣人組合總會を開き專賣所に對備を申込む處あり結局二十五日頃から從前通り各種の煙草を小賣店に卸し渡すことになつたと

農產物販賣改良講演
廿三四平町で

石城郡內各農家は農產物を作ることのみに沒頭し生產品を如何にして市場に送り出すか、如何にして農產物の商品化を實現すべきかと云ふことに就て極めて無關心であつたゝめ非常な損失を招いてゐたので石城郡農會ではこの點につき農家經濟上から見て緊急を要する問題にあるとなし同會か主催となり福島縣農學講習同窓會並に石城同窓會が後援し農產物販賣改善大講演會を來る二十三日二十四日の兩日に亘つて平町元郡役所會議室に於て開催することになつた

平町々會
青年團補助可決

平町會は二十三日午前十時より開會、來る二十四、二十五兩日平町に開かれる縣下青年團並に女子青年團總會に協讃費として各二百圓宛を補助する事を可決して散會した

二個のバット箱は藥に代る大石
伊達屋に泊り込んだ男
實は僞の藥屋

秋田縣秋田郡山瀨村生れ賣藥商鈴木三々雄(三七)は十九日午後四時頃平町白銀町伊達屋旅館野村キン方に宿泊し二三日留守すると稱したゝめ平署に內報の上引致取調べると藥箱と稱する大きな二個の箱には石が一杯詰めてあり藥袋には枯れた松葉があるのみであるが彼れは藥屋に化けて各地を荒し廻つた强か者で目下平署で嚴重取調中

植田春季掃除
今年分けて嚴重

植田町の春季清潔法は二十五日より廿八日まで左記日割にて施行する筈であるが昨年來腸チブスが猖獗を極めたゝめ今年は特に嚴重に施行する事となつた

二十五日後田、戸井田、高倉、江幡、添野、石塚、東田、佐糠、二十七日岩間、小濱、二十八日植田

かみそり

小六姐さん一人が一流だと きまつてゐる譯でもあるまい、なんだい、サンリウていのはだ產が流れたのか、ヘン平の藝者は皆んな七流だせ「質の流れに借金の山を眺めてる風流人だから質流サ、そうだね、夜流すのはナント、ふかね「流れつきせる小便の」なんてそんな汚ねへ唄はねるまい◆オイ猪口ぢや面倒だからつて盃洗で酒を飲むやつがあるかへ、病氣になるせ、ドンナ病氣かつて、なんだよ、ハイセン、カタールつていふんだよ◆大酒を喫ふ女は昔から美人ちやなかつたと見へて、物の本に書いておる「惡女の深ナザケ」とね以て證とすべし

磐女の花壇

磐城高等女學校では過般から校庭に西洋花壇を設けたが近く温室を設置する由である

紅燈街

新田町三島屋から今度おひろめした『さゝ子』至つて氣の優しい素敵な美人、のども良し絃も確信があるとの事、どうぞよろしく

農事講演會
講師は二氏に決す

石城郡農會主催の農事大講演會は廿三、四の二日間平町郡役所會議室に於て開催さる講師は横濱販賣斡旋所主任吉田源一氏東京販賣斡旋所主任齋藤亨氏である

晴れの選手
平から三氏決定

本縣各種團体から晴れの御前試合に出場する選手の豫選會は二十二日福島市に於て執行の結果本郡關係の名譽ある選手に決定せる者左の如し

△柔道池澤三郎(平署)
△劍道十二所常意(平署)
在鄉軍人藤井一(平町)

磐城鄉友花見

福島市在住磐城鄉友會主催の觀櫻會は二十一日午前十時から福島市紅葉山公園大原別莊で開催し、大原病院長、佐藤警察署長、寺澤民友社長以下多數參加し盛大であつた

貸地廣告

平町郡役所より稅務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします

御希望の方は電話なり戴けば社員が御伺ひして親しく御相談に應じます

小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

入院隨意(自炊の便あり)
X光線 外科 專門
平南町
上田外科醫院
電話一一二九

毛糸
防寒用には
丈夫で暖い
英國製毛糸
一オンス 十九錢 二十五錢
手藝材料
ハシモトヤ糸店
平町田町

電燈より接續してすぐ寫る
家庭活動寫眞
パテーベビー活動寫眞機
映寫器 八〇、〇〇
撮影器 六五、〇〇
フヒルム 一本 二、〇〇 二、五〇
生フヒルム 一本 一、〇〇
市內はお伺ひして御覽に供します
御申越次第カタローク進呈
平町二丁目
パテーベビー社代理店
西村屋藥舖
電話三番

妻フヂ子儀葬送の際は遠路態々御會葬被下且つ御香奠を賜り難有御禮申上候混雜中欠禮乍ら紙上を以て御禮申上候

四月廿三日
平町田町
大塚凰三郎
外親戚一同